

澁川一流柔術
無雙神傳英信流抜刀兵法
大石神影流剣術

貫汪館会報

第75号

発行 貫汪館 発行日 平成二十五年七月五日
発行人 森本邦生 広島県廿日市市宮内一四八〇

広島護国神社奉納演武大会

平成25年4月7日(日)広島護国神社において、毎年恒例の貫汪館奉納演武大会が開催されました。前日からの強風で、満開の桜も散りかけていましたが、たくさんのお客が訪れる中で演武を行いました。例年に比べ今年には特に外国人観光客が多く見受けられ、多くの方が大変興味深そうに見学されておられました。

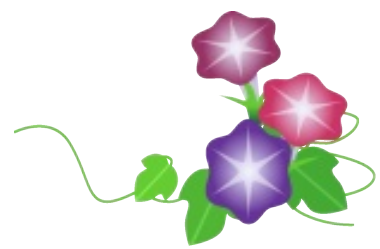
今回の演武会は、大人・子供あわせて30名が参加し、無雙神傳英信流抜刀兵法及び澁川一流柔術の形を奉納しました。正式参拝の後、演武会を開会するにあたり、貫汪館館長 森本邦生先生から「日頃の稽古の成果を神様に見てもらおう日です。今までの稽古のすべてを出し切ってください。子供たちは照れて実力が発揮できないので、ここでしか神様に見てもらえないということをお話して演武をしてください。大人の方は気負うことなく素直な演武をしてください。」とお言葉がありました。続いて、貫汪館顧問 岡田民哉先生から「家庭の中にも権利と義務があります。自分の権利を主張するかわりに、義務を遂行することによってバランスが取れています。技も自分勝手な主張をしないで、相手あつての自分であること、相手に対して思いやりの心で接したらよい技ができると思います。」とお話した後、演武を開始しました。

演武は、最初に岡田先生の居合から始まり、森本先生の柔術、貫汪館顧問 上條雅弘先生の居合に続き、門人が居合、柔術を交互に奉納しました。今回の演武内

容は、ほとんどの子供が緊張のためか、日頃の稽古より焦りが感じられ、心に余裕がなかったように思います。その結果、大きな気合が出ず、気迫に欠けるものになってしまいました。大人の方は、日頃の稽古の成果が十分に発揮できた演武内容であったと思います。

演武会終了後、上條先生から「日頃の稽古がうかがえる演武でした。これからも正しい稽古を続けて高い所を目指してください。」とお言葉をいただき、森本先生から「今日の演武で自分自身の課題がみつかったと思います。子供たちは、声が小さくなかったか、今まで稽古してきたことができていたかをもう一度考えてみてください。大人の方は、日頃の稽古よりも上手にやろうとしなかったか、丁寧なやろうと考えると、そこに居ついて心が技に出てしまいます。今日を振り返り自分の課題をみつめてください。」と講評をいただきました。森本先生、岡田先生、上條先生から賜ったお言葉を今一度よく考え、今回の演武を振り返るとともに驕りや甘えを捨て、改めて自分の進むべき道を考えなければならぬと感じました。

(文責 竹本 治恵)



白峯神宮 古武道奉納報告祭

平成25年5月4日(土)下鴨神社、5日(日)白峯神宮で古武道振興会共催の古武道大会が行われました。

貫汪館からは、森本先生が両日とも無雙神傳英信流抜刀兵法、澁川一流柔術の演武をされ、片岡潤一、竹林哲也が下鴨神社で澁川一流柔術を、竹本康祐、竹本治恵は白峯神宮で澁川一流柔術の演武をさせて頂きました。今春は肌寒い日が続いていましたが、両日は好天に恵まれました。

5日の白峯神宮では、源為義、源為朝を祀り、武道、弓道上達の神として信仰されている伴緒社(とものおしや)で正式参拝が行われ、続いて各流派の演武が行われました。一流派演武時間15分程度でしたので、各流派とも落ち着いてゆつくりと演武されているように感じました。自分の演武も落ち着いた心で静かに時間が流れたのですが、イメージしていた動きには遠い演武でした。心と体の調和がとれていなかったことを反省し、これから自分の動きを改めて考えてみたいと思います。

(文責 竹本 治恵)



京都日本古武道大会

この度の下鴨神社奉納演武に参加させていただくにあたり、神社について調べていくうちに、神社に世界遺産に登録されていることをはじめて知りました。下鴨神社は古い木々に囲まれた大変趣のある建物で観光客が途絶えることなく訪れていることに驚きました。

奉納演武は、午後から神事後、小笠原流弓馬術礼法に始まり、舞殿と橋殿の二会場が進められました。澁川一流柔術の演武順は、最後でしたので、各流派の演武をじっくりと拝見させていただくことができました。なかでも熟練された方々の間の取り方は、自分に足りないものを学ばせて頂きました。

今回の演武では、とにかくうまくやろうという思いを捨てて望みました。演武を終え反省すべき点は幾つかありましたが、初めて心の中が静かになる空間をわずかではありましたが感じる事ができたように思います。

演武を拝見している途中で、観光客らしいご年配の女性から声をかけられる機会がありました。その方がお話になるには「一人をお守りになるのが神様であるのに、どうして人を傷つける刀を神様の前で振り回すのですか。」と尋ねられました。戸惑いながら私は「普段、私たちが武道で修業させて頂いている心を神様に奉納させて頂いています。」とお答えしました。すると女性の方は「ものを知らないものでおかしなことを聞いて申し訳ありません。」と言われその場を去られました。今、その時のことを思い返すと尋ねられたことに対しての答えになつていなかったのではないかと反省しています。

演武とは言え、私的な思いが少しでも入れば暴力としか映らないのか

もしれないと思います。自分はどうであるかこれからの課題の一つだと感じました。

(文責 竹林 哲也)



京都日本古武道大会 下鴨神社

平成25年5月4日(土)、京都の下鴨神社にて日本古武道振興会主催の奉納演武会に参加いたしました。私は日本古武道振興会の演武会に参加するのは初めてでしたが、世界文化遺産である下鴨神社で演武させて頂くことは大変よい経験となりました。また、下鴨神社での澁川一流柔術の演武は今回が初めてと言うことで、そのような意味では大変緊張する演武会でした。

演武は「舞殿」と「橋殿」の二つの舞台で行われ、当日は35流派の方々がそれぞれの舞台で演武を行いました。毎回このような演武会では、演武を拝見させて頂く中で学ぶ事が多く、それぞれの方の古武道に対する姿勢を学ばせて頂いています。今回も、各流派の演武される方の動きはすばらしく、その流派の特徴をよく現した演武をされておられました。演武以外での姿勢でも多くの事を学びました。例えば、演武を見学する上での立ち振る舞いなどです。他流派の演武を見学される姿は、

何かを学びとらうとされる姿が感じられ、参拝に来られている観光客の方々にも気を使われ、邪魔にならない様にと配慮されていることはすばらしく感じました。このような立ち振る舞いを見て、その流派での稽古量の多さや深さを感じることができました。

さて、私の演武ですが舞台が人の高さほどあり、いつもと違った雰囲気でも、しかも演武順が変わり、最後の演武というハプニングもありましたが、稽古の時と変わりなく比較的落ち着いて演武できたと思います。下鴨神社という独特の雰囲気を持った場所がそうさせたのかも知れません。演武会終了後には、参集殿にて食事会となりました。食事会では直心影流薙刀術の先生方と、同席させていただきました。楽しくお話をさせていただきました。大変緊張しましたが、貴重な時間を過ごすことが出来ました。

京都での一日は、実に有意義なものでした。多くの流派の方々と演武会で演武する事は自分の稽古の目標が見えますし、多くのすばらしい方との出会いもあります。ぜひ、道場の皆様も稽古を積まれて、このような演武会に参加されることをお勧めいたします。また、時間が有りましたら、演武会を見学することも稽古となりますのでお勧めいたします。

(文責 片岡 潤二)

平成25年第2回居合講習会

今回の講習会は居合を主に行われました。呼吸の仕方、基本姿勢を稽古したので、かなり落ち着いた状態で稽古を始めることができました。

居合では、相手の動きを理解する為、森本先生が自ら一つ一つ丁寧に理合を説明して下さいました。その説明で敵の姿を思い描くことがはっきりでき、動きのタイミングでずれていた所がよくわかりました。身体を常に柔らかくしていなければできない動きばかりで、うまく修正ができなかったように、感じます。

また、大小詰の一つの技を徹底して行い、身体の力を抜いて行う動きがうまくできませんでした。日頃から、楽な姿勢で力を抜くように指導を受けておりますが、さらに力を抜くということが難しく、うまくできませんでした。大石影流剣術では、多数の技が行われ、すべてを感覚でとらえることは困難でした。

今回の講習会は、多くの反省すべき点がわかり充実したものになりました。これから、反省すべき点を直しつつ、一つ一つ技を磨いていこうと思います。

(文責 近棟 孝平)



平成25年度行事予定 (5月〜12月)

- 5月4日(土) 京都下鴨神社 奉納演武 (下鴨神社主催・日本古武道振興会共催)
- 5月5日(日) 京都白峯神社 奉納演武 (白峯神社主催・日本古武道振興会共催)
- 6月29日(土) 昇級審査
- 7月6日(土)〜7日(日) 合宿 (国立三瓶青少年交流の家)
- 9月10日(火)〜12日(木) 日本武道学会第46回大会 (筑波大学)
- 9月15日(日) 昇段審査
- 11月3日(日) 明治神宮 日本古武道演武大会
- 12月14日(土) 昇級審査会
- 12月15日(日) 稽古納 廿日市天満宮奉納
- 12月21日(土) 日本武道学会 中四国支部会